

ばら園「恋人の聖地」が小説新潮に

直木賞作家・角田光代氏執筆

直木賞作家の角田光代さんが10月2日かのやばら園を訪れ、かのやばら園の「恋人の聖地」を舞台にした恋愛小説を書き下ろし、小説新潮12月号に掲載すると発表した。作品のタイトルは未定。

12月号に恋愛小説掲載

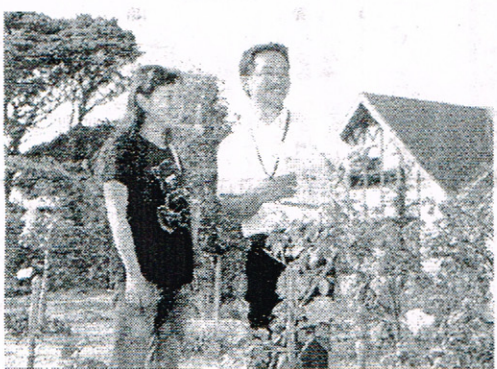
新潮社の発行する月刊文芸誌「小説新潮」2013年12月号巻頭特集企画で、「恋人の聖地」をテーマとし、全国

の「恋人の聖地」にふさわしいロマンチックなバラボレーションになる。

「恋人の聖地」の中から選んだ7ヶ所にまつわる恋愛小説を、直木賞作家の井上荒野さん、角田光代さん、村山由佳さん、山本文緒さんら話題の7人の作家が、恋人の聖地を恋愛小説の舞台にしてそれぞれ書き下ろす。

「幸福な遊戯」で海潮新人文学賞を受賞し文壇デビュー。2005年「対岸の彼女」で直木賞、2006年「ロケット船」で川端康成文学賞など多数受賞している。

2日にかのやばら園を訪れ、園内を散策しながら担当

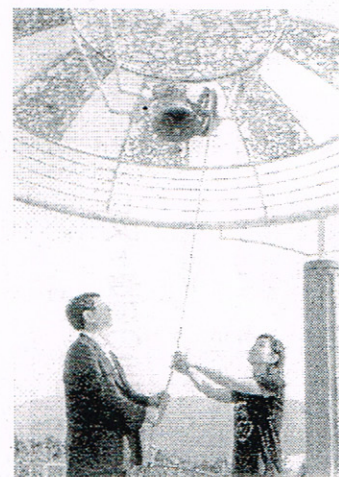


担当者からばら園の説明を聞く角田光代さん（左）

者から説明を聞き、「恋人の聖地」では嶋田芳博鹿屋市長と鐘を鳴らした。

角田光代さんは「広い園内に多くの種類のバラがあり、周囲の山の景色が気持ちよかったです。時期が早くバラの開花は少なかったが、満開のイメージはつきました。鹿屋市内も見て、温暖な鹿屋のイメージをつかみたい。花をテーマにした作品はなく、新しいチャレンジになる」と話し、バラソフトクリームを食った。

嶋田芳博鹿屋市長は「かのやばら園をPRしていた



嶋田芳博鹿屋市長と恋人の聖地で鐘を鳴らす角田光代さん（右）

だき、嬉しいと話し、バラソフトクリームやバラカラー、バラ焼酎などを紹介した。

かのやばら園の「恋人の

聖地」での筆式料は無料で、現在34組が筆式をあげており、証明書を無料で園長がプレゼントしている。